

住民主体で福祉のまちづくりを推進する情報交流紙です

よつ葉のクローバー KIKUSUI

No.19 2009.3.25



福まち通信

菊水福祉のまち推進センター運営委員会
札幌市白石区菊水6条4丁目3-10
電話 011-887-7006 FAX011-887-7006



盲導犬特集号

白石区社協主催・福まち活動交換会開催

2月26日(木)午後1時半から、白石区民センター(白石区本郷通3

丁目)3階区民ホールで、平成20年度の標記福祉のまち推進センター活動交換会が開催されました。菊水地区の福祉のまち推進センター(略称福まち)からは運営委員長細野さんはじめ4人の委員さんが出席しました。



近年、全国的に孤立死の発生が大きな問題となっており、地域での助け合いが益々重要になっているという現状を踏まえ、白石区社会福祉協議会(略称・社協)では平成18年度より「日常生活支援活動」に視点をおいてこの交換会を開催しています。

最初に白石区社会福祉協議会砥光会長さんと白石区長さんからの挨拶で始まりました。続いて豊平区社会福祉協議会小平事務局次長さんから「なぜ、単位町内会などの小地域で福まち活動に取り組む



ことが大切なのか」のお話がありました。休憩を挟んで、そのお話をベースにしてグループ討議が行われました。出席者はそれぞれ四つのグループに別れて、各地域における福祉の諸問題や、それに取り組む福まち活動の現状・今後の取り組みのあり方などについて話し合いました。グループ討議での意見交換の結果は次のようにまとめられました。、福まち活動はどの地域においても前向きに進化してきているが、担い手や財源の問題、個人情報の問題など、課題も沢山ある。しかし、孤立を防ぎ、安心して暮らせる地域を創っていくためには、これらの課題は今後越えていかなければならないという認識で一致しました。



第4グループでは、菊水地区福まち折原広報部長が検討結果の発表をしました。



盲導犬にむいている犬は、ラブラドル・レトリバーです。この犬は性格が穏やかで人間と遊ぶのが大好きなのです。

盲導犬を知ろう

～盲導犬の現状～

皆さんは街の中で左の写真のようにハーネスをつけてユーザー(視力障害者)を安全に導いている盲導犬を見たことがあるでしょう。

盲導犬は、視力に障害のある人たちの外出の機会を広げる役割を果たしているのです。この盲導犬を待っている視力障がい者は日本中に約7,900人おられますが、現在活躍している盲導犬は約960頭に過ぎません。北海道盲導犬協会(南区南30条西9丁目)では一頭でも多

くの盲導犬を育てようと努力を続けておられます。

また、一頭の盲導犬を育てるためには色々なボランティアが関わっています。盲導犬の一生について、盲導犬協会でお聞きしてきました。

～誕生から約50日まで～

子犬の親になる犬たちは、「繁殖犬飼育ボランティア」と呼ばれる一般の家庭に預けられています。菊水1条4丁目町内会の小林会長さん

もこの飼育ボランティアをしておられます。預かっている繁殖犬の名前は「ベティ号」といいます。現在12歳で、これまで出産した子犬は約30頭になるそうです。盲導犬になる大事な子犬を出産するときには一晩中つききりで介護しますし、盲導犬協会からも職員が参加するそうです。生まれた子犬は飼育ボランティアの家でそのまま約50日育てられます。



子育て中のベティ



小林家の大切な一員として大切に飼育されているベティ

～50日から1歳まで～

生まれてから約50日で「パピーウォーカー」の家に行きます。パピーウォーカーとは、子犬を約1年間家族の一員として育てるボランティアの家庭です。名前も初め



てここで付けてもらいます。沢山の愛情に包まれ、さまざまな経験をして成犬として育てていくのです。家族に可愛がられて育つことで、人に優しい盲導犬の基本ができるのです。

～約1歳から2歳前後～

盲導犬協会では盲導犬になるためのさまざまな訓練を受けます。訓練を受けられるのは盲導犬に向いているという適正評価で選ばれた犬たちです。パピーウォーカーで育てられた犬のうちから約3割から4割が厳選されます。盲導犬候補生

となった犬たちは、約7ヶ月の訓練に入ります。盲導犬の仕事は、視力障害のご主人の指示にきちんと応え、目的地まで安全に誘導することです。そのために大切な行動を何度も繰り返し、一人前の盲導犬となるのです。



盲導犬候補の犬たち



誘導訓練中の候補犬

訓練は大きく分けて基本訓練と誘導訓練があります。基本訓練は人間とコミュニケーションがとれるよう声かけから始めます。声かけに反応できたら、すわれ、伏せなどの訓練に進みます。誘導訓練は、ハーネスをつけて外を歩く訓練です。簡単なものから始め、複雑な道路や雪道、バスの乗り降りの訓練や経験を増やしていきます。

残念ながら盲導犬になれなかった犬(キャリアチェンジ犬)の多くは、ペットとしてパピーウォーカーの家庭などで幸せに暮らします。

～約2歳前後から12歳ぐらいまで～

多くの場合、約2歳前後から12歳までの約10年間盲導犬として活躍します。仕事をするとき以外は、ユーザーの家庭で生活しています。一緒に暮らすことで、誘導する仕事だけでなく、ご主人の心の支えにもなります。家の中では普通のペットと同じで、ご主人や家族の心を和ませ、強い絆で結ばれています。

～12歳ぐらいから～

12歳ぐらいで盲導犬を引退します。引退した犬たちは盲導犬協会の老犬ホーム又は、「老犬委託ボランティア」さんの家で、老後をのんびりと過ごします。老犬ホームは、盲導犬を引退した犬に「これからは、自分のためだけに過ごしてほしい」という盲導犬ユーザーの思いから作られました。職員と多くのボランティアにより、一頭一頭の体調や性格を考慮した24時間体制で介護を行っています。老犬の平均寿命は、ペットとして暮らすレトリバー犬より少し長い15歳前後です。天国へ行った犬たちの多くは、盲導犬協会の敷地内にある慰霊碑の中で安らかに



仕事中の盲導犬

眠っています。

協会はボランティアを求めています

盲導犬になる直前の約1年間の訓練期間以外は、すべてボランティアの皆さんに協力をお願いしています。あなたもやってみませんか。

ボランティアになるための採用条件は、左のとおりですが、この他に、家族全員が犬が好きな家庭であること、他の犬を飼っていないことが必要です。

北海道盲導犬協会 011-582-8222

飼育ボランティアを募集しています。

愛情たっぷり可愛がって飼育いただける家庭を募集しています。

親犬の飼育と子犬の出産 ● 繁殖犬飼育ボランティア


生後50日の子犬を1年間 ● パピーウォーカー

引退した盲導犬 ● 老犬委託ボランティア

盲導犬になれなかった犬 ● キャリアチェンジ犬飼育の引き取り

募集条件

- ① 札幌市内および近郊にお住まいの方
- ② 室内で飼育いただける方
- ③ 犬との行動が自由にできるように自家用車をお持ちの方
- ④ 日中あまり留守にしない方



北海道の盲導犬第一号はミーナ号

昭和45年3月、札幌盲導犬協会(現北海道盲導犬協会)が発足した。事務局は最初、札幌市福祉センター内に置かれた。翌年5月、北海道で初めての盲導犬2頭が誕生した。第一号は札幌福祉センター職員の雨宮さんがユーザーとなったミーナ号である。第一号を記念して、現在道内各地におかれている募金箱にはミーナの名前が付けられている。

雨宮さんは、市役所広報課に勤務していた頃、突然網膜はく離で完全に視力を失った。国立函館光明寮で訓練を受けたのち復職し、福祉センターの視力障害者相談員として勤務した。多数の障害者のよき相談員として働いたほかに、点字図書館を開設したり、全国で初めての広報「点字札幌」を発行した。点訳奉仕団むつつの会や朗読奉仕会を育成するなど、次々に視力障害者福祉の基礎を築かれた功労者で、光を失った彼が、人々の光となったのである。後に、更正援護功労者として厚生大臣表彰を受けている。前出の**小林町内会会長**は、同じ福祉センターの元職員で、6年間雨宮さんと一緒に勤務していた経験がある、そのときからパピーウォーカーとして盲導犬を育てて20年、現在に至っている。
(写真は昔の盲導犬協会の玄関前でミーナと一緒に撮影した雨宮さん)



ふれあいいきいきサロン交流会

3月10日白石区民センターで白石区社協主催の第2回標記交流会が開かれました。現在いきいきサロンは全市で418団体(高齢者283、子育て123、障害者10)活動していて、そのうち白石区では23団体が活動しています。菊水には「お茶の間サロン・チャオ」一箇所だけの設置で、増設が望まれています。



白石区内のサロン主宰者18名が集まり、介護予防センター職員からサロン開催のノウハウや楽しいゲームを教えてもらいました。休憩後、3グループに別れて、サロンでの取り組みや問題点・課題などについて話し合いましたが、皆さん実践者の立場から積極的に有益な意見の交換を行いました。

ふれあいいきいきサロンセミナー

3月16日北海道厚生年金会館で、札幌市社協主催の「ふれあい・いきいきサロンセミナー」が開催されました。白石区からは「お茶の間サロン・チャオ」と「いきいきサロン・やまびこ」の二つだけで、白石・東札幌民児協役員、白石東町連長など9名の参加があったにしろ、他の区と比べて低調であることは否めない状況でした。



と「いきいきサロン・やまびこ」の二つだけで、白石・東札幌民児協役員、白石東町連長など9名の参加があったにしろ、他の区と比べて低調であることは否めない状況でした。

基調講演は「住民発・小地域エリアのあったか支援活動の今と明日」と題して、北星学園大学大内高雄教授の講演がありました。この内容は、地域の実践者にとって聞き飽きたものでした。休憩を挟んで、2団体と1専門機関からの活動発表がありました。豊平区の高齢者サロン「つきさむくらしネットワークの会」は本格的な活動団体で、ここまで発展するのに6年を要しており、その粘りと実行力には感服しました。



編集後記 19号は盲導犬特集号としました。光を失った人たちの目となり、懸命に働く犬たちに負けぬように、安心して暮らせる地域づくりに励みましょう。
(枝元編集員)